

番号	指 摘 事 項	対 応
1	<p>ダイオキシン類の環境大気調査結果における野口地点及び大山地点では冬季の結果（準備書p239）が他の地点と比べると若干高めであるが、この要因を推定するにあたり、ダイオキシン類の異性体パターンの解析を検討されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、ダイオキシン類の異性体パターンについては、別添資料のダイオキシン類のPCDD、PCDFの同族体比較(図1)、co-PCBの異性体比較(図2)のとおりでした。この図には、冬季の環境大気調査結果に加え、2009年7月と2010年1月の環境センターからの排ガスの測定結果も併せて表示しています。</p> <p>これらの結果からは、以下のことがわかります。</p> <p>①図1のPCDD、PCDFの同族体では、環境大気と比較すると、環境センター排ガスではH7CDDs、O8CDDが少なく、T4CDFs、P5CDFsが多い傾向がみられること。</p> <p>②図2のco-PCBの異性体では、環境大気と比較すると、環境センター排ガスでは#118が少なく、#126、#157が多い傾向がみられること。</p> <p>③環境センター排ガスは、1月と7月の測定でダイオキシン同族体組成及びco-PCB異性体組成に大きな差異はみられないこと。</p> <p>以上のことから、環境大気の濃度レベルが低いいため厳密な比較は難しいものの、野口及び大山地点の濃度パターンは、環境センター排ガスのような燃焼系由来の寄与は大きくないことが示唆されます。</p>
2	<p>景観の予測結果（困繞景観、準備書p643）では、現状も設置されている調整池周辺の安全用フェンスが示されていない。景観に影響する要素であり、設置する場合には予測に含める必要があるので検討されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、調整池の転落防止用の安全柵としてフェンスを設置する予定ですが、フェンスの色や形状など具体的な仕様は特に決めておらず、準備書のフォトモンタージュには含めていないとのことでした。</p> <p>これについては、今後フェンスの内容を検討しながら、フォトモンタージュへ追加することです。</p>

番号	指 摘 事 項	対 応
3	<p>新施設の平面図（準備書p13）を見ると、事業予定地外の北東側で工事を行うことが考えられるが、人と自然との触れ合いの活動の場の予測においては、隣接する「ふれあいの森」へのアクセス影響について検討されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、現時点では詳細な工事計画は決まっておきませんが、事業予定地の敷地北東側では、土地造成工事に伴う調整池の既設暗渠の付替え工事や、工場敷地と「ふれあいの森」へのアクセス道路の境界にフェンスを設置するための法面形成工事等も併せて予定しております。この暗渠付替え工事は、「ふれあいの森」へのアクセス道路と重複する箇所もありますが、工期は約2週間程度であり、仮設通路等を設けて通行止めにすることはないこと、また、法面形成工事等は、特にアクセス道路への影響はないことから、当該工事による影響については、ほとんどないと考えているとのことでした。</p> 
4	<p>景観の予測結果（囲繞景観のフォトモンタージュ、準備書p643）では、調整池付近の擁壁（5m）の緑化も入れているが、早期の緑化が可能となる工法もあるので検討されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、現時点では維持管理性も考慮し早期に緑化を図ることが出来る、ツル植物を使用したヤシマット工法等を予定しているとのこと。なお、この擁壁等の工事は工場棟工事に先立って施工することから、他施設の実績例を参考にすると、供用開始年度には十分繁茂した状況になることが考えられるとのこと。</p>  <p>参考事例：小牧市市民会館 （施工後1年程度）</p>

番号	指 摘 事 項	対 応
5	<p>大気質の予測では、事業予定地周辺の地形を踏まえ三次元マスコンモデルや移流パフモデルを使用しているが、特に拡散式での計算過程の説明が不足し、得られた結果の検証がされにくい。予測結果に至る拡散幅や計算ステップについて説明されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、予測結果に至る拡散幅や計算ステップ等について、評価書においては次のような説明をすることです。</p> <p>三次元マスコンモデルでは、年間8,760時間の1時間毎に、次に示す計算格子における三次元の風速成分を計算しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>建設機械の稼働等の予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測範囲;800m四方 ・水平方向格子間隔;20m ・鉛直方向格子間隔;10m </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ばい煙の排出の予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測範囲;8km四方 ・水平方向格子間隔;100m ・鉛直方向格子間隔;10m </div> </div> <p>上記の風向風速場において、発生源から1秒間隔にパフを移流させました。この1秒毎のパフの拡散幅は、このパフの移動距離(1秒毎の移動距離を積算したもの)の関数(準備書p.301の表7.1.29、Pasquill-Gifford線図の近似関数)を用いて算出しました。この1秒毎の濃度を地点(各格子位置)別に積分することにより、1時間値の濃度を求めました。(イメージ図を参照)</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto 10px auto;"> <p>観測値(赤矢印)に基づき、連続の式を満たすように、メッシュ毎の風向・風速(水色矢印)を推定する。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>マスコンモデルのイメージ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>移流パフモデルのイメージ</p> </div> </div> </div> <p style="text-align: center;">図 マスコン移流パフモデルの予測計算イメージ</p>

別添資料

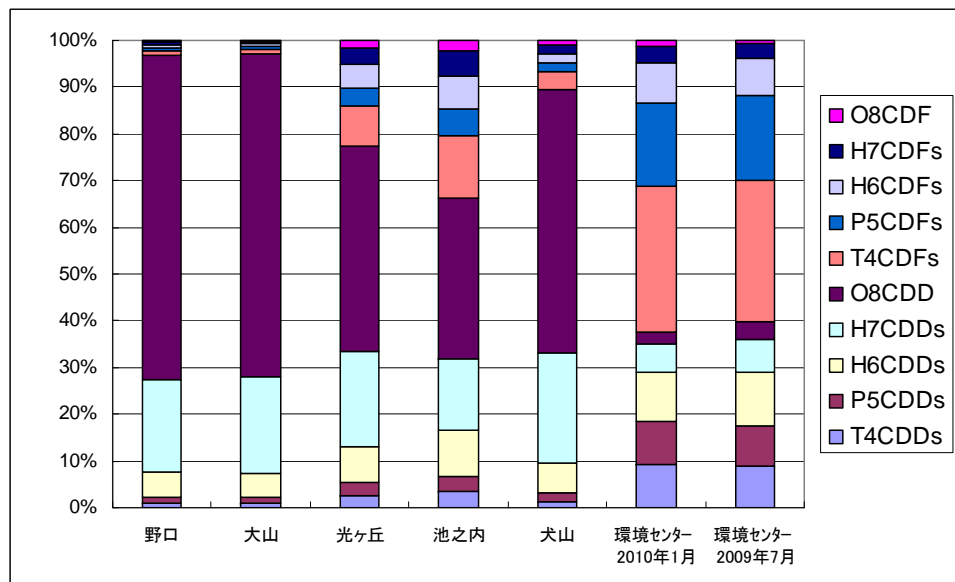


図1 PCDD、PCDF の同族体比較図 (冬季)

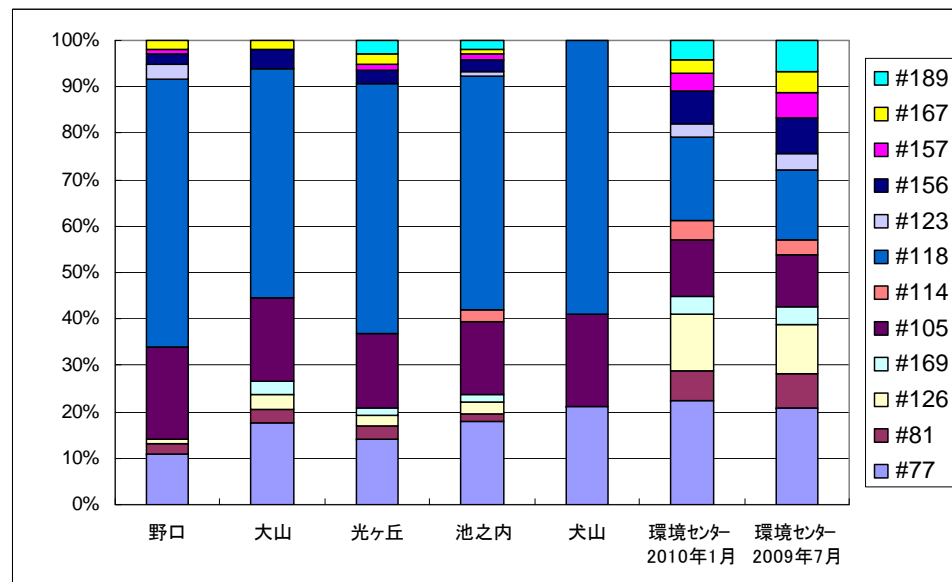


図2 co-PCB の異性体比較図(冬季)

参考

ノンオルト置換 (コプラナー) PCB	3,3',4,4'-TCB	#77
	3,4,4',5-TCB	#81
	3,3',4,4',5-PeCB	#126
	3,3',4,4',5,5'-HxCB	#169
モノオルト置換 PCB	2,3,3',4,4'-PeCB	#105
	2,3,4,4',5-PeCB	#114
	2,3',4,4',5-PeCB	#118
	2',3,4,4',5-PeCB	#123
	2,3,3',4,4',5-HxCB	#156
	2,3,3',4,4',5'-HxCB	#157
	2,3,4,4',5,5'-HxCB	#167
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	#189